

テスト実行

1. 概要.....	2
2. 実行方法.....	3
■ ツールボタンからの実行.....	3
■ メニューからの実行.....	3
2-1. テスト実行.....	4
2-2. 再実行.....	5
2-3. 簡易印刷.....	5
2-4. 簡易 PDF プレビュー.....	6
2-5. 簡易 HTML プレビュー.....	6
2-6. 簡易 Excel プレビュー.....	6
3. 実行ダイアログ.....	7

1. 概要

Create!Form は「帳票ジョブの作成」から「出力の確認」までを行うツールです。

帳票資源ファイル（Job ファイル、Form ファイル、Datamap ファイル）の作成が終わり、帳票ジョブが完成したら、「テスト実行」を行います。作成した帳票ジョブを実行して、PDF ビューアーでの表示、ブラウザでの表示、またはプリンターへ出力して帳票内容を確認することができます。

テスト実行の結果は、ランタイムを実行した結果と同じです。この段階で全ての調整を行うことができますので、必要であればレイアウトの調整など「帳票ジョブ」を修正します。また、目的のページ数を含んだデータファイルを使用して処理速度の確認を行うこともできます。

本章では、実行方法と実行ダイアログ画面について紹介します。

2. 実行方法

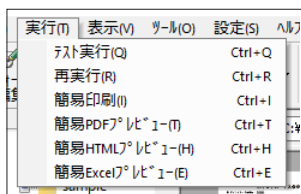
ランタイム実行する方法は2通りあります。

■ ツールボタンからの実行

マネージャーのツールボタン [実行] の横にある [▼] ボタンをクリックすると、ドロップダウンメニューが表示されます。ドロップダウンメニューには、現在選択されている実行種別がチェックされています。ツールボタンをクリックするとチェックされている実行種別でランタイム実行します。

ツールボタン [実行] をクリックして行う実行種別を変更する場合、ドロップダウンメニューから目的の実行種別を選択してください。

図：ツールボタン [実行] ドロップダウンメニュー



選択されている実行種別はツールボタン [実行] に含まれる文字列から判断することができます。

図：ツールボタン [実行]

実行種別：実行ダイアログ



再実行



簡易印刷



簡易 PDF プレビュー



簡易 HTML プレビュー



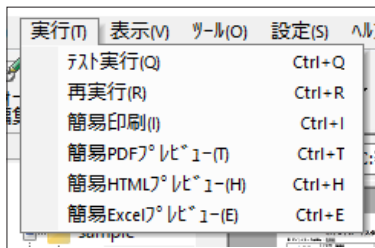
簡易 Excel プレビュー



■ メニューからの実行

ツールボタン「実行」とは異なり、クリックした実行種別でランタイム実行します。マネージャーのメニュー [実行] から実行種別を選択してクリックします。

図：メニュー [実行]



2-1. テスト実行

「実行ダイアログ」を起動して、Job ファイルや Datamap ファイルに対応させるデータファイルの組み合わせを設定します。また、出力ファイル名やオプションを設定することができます。「実行ダイアログ」については「3. 実行ダイアログ」をご覧ください。

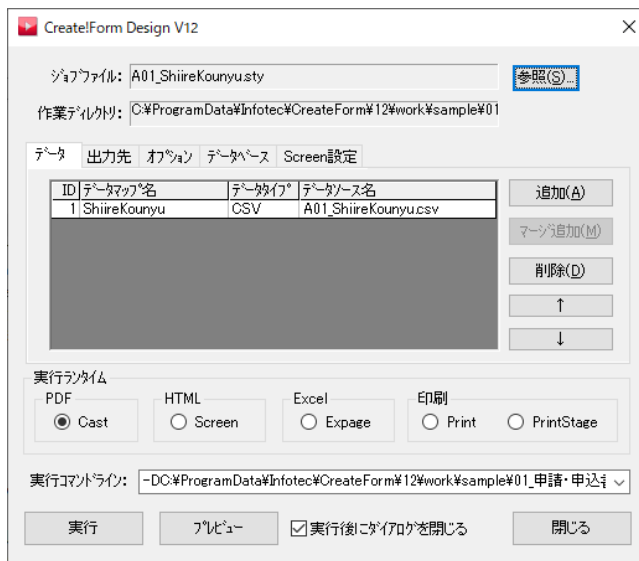
◆◆ 操作 ◆◆

マネージャーのツールボタン[実行]横の[▼]をクリックして、[実行ダイアログ]を選択してクリックします。

出力の確認を行う Job ファイルとデータファイルを選択して、ツールボタン[実行]をクリックします。

[実行ダイアログ]が起動します。

図：実行ダイアログ



テスト実行を行う Job ファイルおよび Datamap ファイルとデータファイルの組み合わせを確認し、実行モード「実行」もしくは「プレビュー」ボタンをクリックして出力を確認します。「実行」と「プレビュー」では、ランタイム実行後の動作が異なります。

・実行

実行ダイアログで指定した[実行コマンドライン]を引数として、ランタイム実行 (PDF 出力、HTML 出力、Excel 出力、プリンターに対して出力) します。[実行コマンドライン]内で指定したファイル名で出力、もしくはプリンターに対して出力します。

・プレビュー

実行ダイアログで指定した[実行コマンドライン]を引数として、ランタイム実行 (PDF 出力、HTML 出力、Excel 出力、プリンターに対して出力) し、生成されたファイルをプレビュー表示します。

<< 注意 >>

PDF を表示するには、[Adobe Acrobat] または [Adobe Reader] 等の PDF ビューアーが必要です。また Print ランタイムでのプレビューには [Adobe Acrobat] が必要です。なお、PrintStage では [プレビュー] を選択することはできません。

2-2. 再実行

前回は行ったテスト実行を「実行ダイアログ」を起動せずに、再度同じ設定で実行します。テスト実行の結果、罫線やフォントサイズを調整した後で、実行ダイアログを起動することなく確認することができます。

※再実行を行うには事前にテスト実行を行っている必要があります。

◆◆ 操作 ◆◆

マネージャーのツールボタン [実行] 横の [▼] をクリックして、[再実行] を選択してクリックします。

出力の確認を行う Job ファイルとデータファイルを選択して、ツールボタン [実行] をクリックします。

再度前回のテスト実行が行われます。(※実行ダイアログは表示されません。)

<< 注意 >>

- 1: 前回のテスト実行で実行モード「実行」を選択した場合、出力を再度行いますのでファイルのプレビュー表示は行われません。
- 2: 前回のテスト実行から指定するオプションやデータファイル名、実行モードを変更することはできません。変更する場合は「テスト実行」を行ってください。

2-3. 簡易印刷

環境設定の簡易印刷の設定 (※) の設定内容で出力を行います。実行時には「実行ダイアログ」を表示しません。

データファイルにはデータファイルリストで選択されたデータファイルが使用されます。データファイルを選択していない場合は、Datamap ファイルに登録されているデータファイルが使用されます。

※簡易印刷に使用するランタイムとプリンターの設定はマネージャーのメニューから変更することができます。メニュー [設定]-[環境] をクリックし、起動したダイアログの [印刷設定] タブを選択して下さい。

◆◆ 操作 ◆◆

マネージャーのツールボタン [実行] 横の [▼] をクリックして、[簡易印刷] を選択してクリックします。

出力の確認を行う Job ファイルとデータファイルを選択して、ツールボタン [実行] をクリックします。

ランタイムが実行され、生成されたファイルをプリンターへ出力します。(※実行ダイアログは表示されません。)

<< 注意 >>

出力に使用されるプリンターは環境設定に設定されているプリンターです。実行前に環境設定ダイアログから確認して下さい。環境設定ダイアログはマネージャーのメニュー [設定]-[環境] で起動します。プリンターの設定は [印刷設定] タブから行います。

2-4. 簡易 PDF プレビュー

環境設定の簡易 PDF プレビュー実行時には「実行ダイアログ」を表示しません。

データファイルにはデータファイルリストで選択されたデータファイルが使用されます。データファイルを選択していない場合は、Datamap ファイルに登録されているデータファイルが使用されます。

◆◆ 操作 ◆◆

マネージャーのツールボタン [実行] 横の [▼] をクリックして、[簡易 PDF プレビュー] を選択してクリックします。

出力の確認を行う Job ファイルとデータファイルを選択して、ツールボタン [実行] をクリックします。

ランタイムが実行され、生成されたファイルをプレビュー表示します。

2-5. 簡易 HTML プレビュー

環境設定の簡易 HTML プレビュー実行時には「実行ダイアログ」を表示しません。

データファイルにはデータファイルリストで選択されたデータファイルが使用されます。データファイルを選択していない場合は、Datamap ファイルに登録されているデータファイルが使用されます。

◆◆ 操作 ◆◆

マネージャーのツールボタン [実行] 横の [▼] をクリックして、[簡易 HTML プレビュー] を選択してクリックします。

出力の確認を行う Job ファイルとデータファイルを選択して、ツールボタン [実行] をクリックします。

ランタイムが実行され、生成されたファイルをプレビュー表示します。

2-6. 簡易 Excel プレビュー

環境設定の簡易 Excel プレビュー実行時には「実行ダイアログ」を表示しません。

データファイルにはデータファイルリストで選択されたデータファイルが使用されます。データファイルを選択していない場合は、Datamap ファイルに登録されているデータファイルが使用されます。

◆◆ 操作 ◆◆

マネージャーのツールボタン [実行] 横の [▼] をクリックして、[簡易 Excel プレビュー] を選択してクリックします。

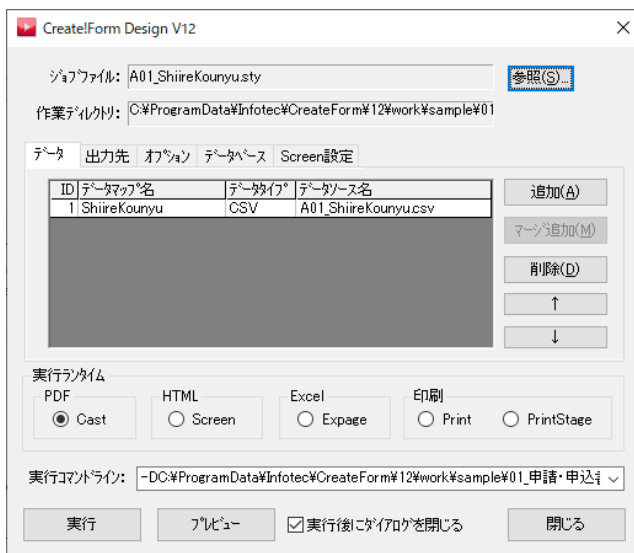
出力の確認を行う Job ファイルとデータファイルを選択して、ツールボタン [実行] をクリックします。

ランタイムが実行され、生成されたファイルをプレビュー表示します。

3. 実行ダイアログ

ここでは、実行ダイアログの画面項目についてそれぞれ説明します。

図：実行ダイアログ



[ジョブファイル]

ランタイム実行時に使用するジョブファイル名を表示します。マネージャーでジョブファイルを選択して起動した場合、選択したジョブファイル名が表示されます。ジョブファイルを変更する場合、[参照] ボタンをクリックします。

[参照] ボタン

ランタイム実行に使用するジョブファイルを変更します。「ファイル選択」ダイアログが起動しますので、ランタイム実行するジョブファイルを選択してください。

[作業ディレクトリ]

実行ダイアログの起動時に参照していた作業ディレクトリパスを表示します。

[実行ランタイム]

使用するランタイムを選択します。

※ Design を導入している場合は、全てのランタイムを選択することができます。ランタイム製品のみを導入している場合、導入しているランタイムのみ選択することができます。

[実行コマンドライン]

ランタイムへ渡される実行コマンドライン（オプション）を表示します。履歴として 10 回前までの実行コマンドラインがコンボボックスで選択できます。

※ DB データを使用する場合、パスワードは表示されません。

[実行]

[実行ランタイム] で選択しているランタイムに [実行コマンドライン] で記述されている文字列を引数としてランタイム実行します。

[プレビュー]

[実行ランタイム] で選択されているランタイムに [実行コマンドライン] で記述されている文字列を引数としてランタイム実行します。生成されたファイルをプレビュー表示します。

※ PDF を表示するには、[Adobe Acrobat] または [Adobe Reader] 等の PDF ビューアーが必要です。また Print ランタイムでのプレビューには [Adobe Acrobat] が必要です。

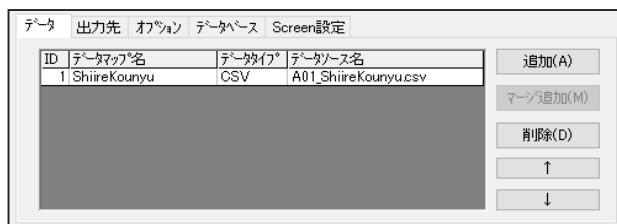
[実行後にダイアログを閉じる]

チェックされている場合、テスト実行を行った時に自動で実行ダイアログを終了します。

[閉じる]

実行ダイアログを終了します。

図：実行ダイアログ - [データ]



[ID]

[ジョブファイル] に設定されているジョブユニット ID を表示します。

[データマップ名]

[ジョブファイル] で設定されている Datamap ファイル名を表示します。登録しているデータマップファイル名を表示します。

[データタイプ]

[データマップ名] に表示されているデータマップファイルのタイプを表示します。

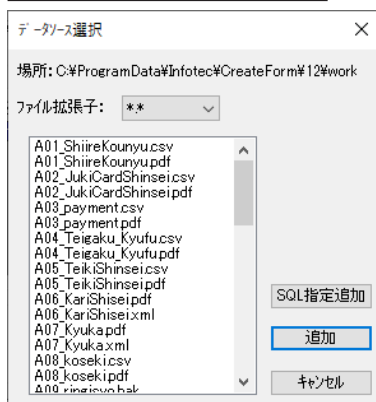
[データソース名]

割り当てられているデータソース名を表示します。実行ダイアログ起動時にデータファイルを選択しないで起動した場合、データマップファイルに設定されているデータファイル名が表示されます。データソースを変更する場合、「追加」ボタンをクリックします。

[追加]

「データソース選択」ダイアログが起動します。現在選択されている箇所にデータファイルを追加します。

図：データソース選択ダイアログ



[ファイル拡張子]

追加するデータファイルの拡張子を選択します。選択した拡張子を持つデータファイルが下のリストに表示されます。※DBを使用する場合は、Create!Formに登録されているデータソース名が表示されます。データソースの登録はマネージャーのメニュー[設定]-[データソース]より行います。

[SQL 指定追加]

追加するファイルがDBの場合、[SQL ファイル]を付加して追加することができます。
※DB データマップファイル作成時とは違う SQL を指定したい場合に使用してください。

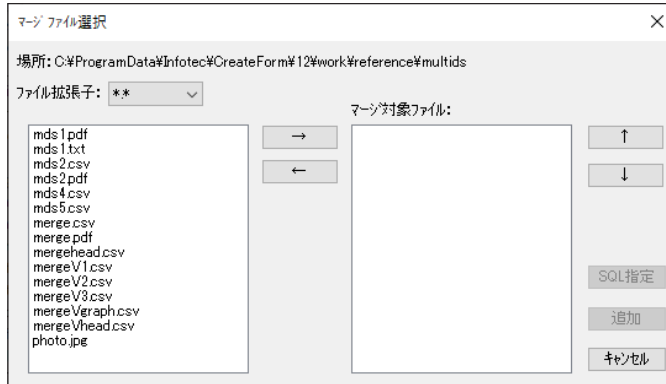
[追加]

リストで選択されているデータファイルを「データソース名」に追加します。

[マージ追加]

データファイルをマージして追加します。
※マージできるファイルは [csv]、[txt]、[DB] になります。種類の異なるファイルのマージは行えません。

図：マージ追加ダイアログ



[ファイル拡張子]

マージするデータファイルの拡張子を選択します。選択した拡張子を持つデータファイルが下のリストに表示されます。

※ DB を使用する場合はリストに Create!Form に登録されているデータソース名が表示されません。

[→ (追加)]

選択されている既存のデータファイル（左のリスト）を、マージするファイルリスト [マージ対象ファイル] に追加します。

[← (削除)]

選択されているマージ対象ファイルを削除します。

[↑ (上に移動)]

選択しているマージ対象ファイルを1つ上のファイルと入れ替えます。選択しているマージ対象ファイルより上にファイルが存在しない場合は入れ替えは行われません。

[↓ (下に移動)]

選択しているマージ対象ファイルを1つ下のファイルと入れ替えます。選択しているマージ対象ファイルより下にファイルが存在しない場合は入れ替えは行われません。

[SQL 指定]

マージファイルが DB の場合 [SQL ファイル] を付加することができます。

※ DB データマップファイル作成時とは違う SQL を指定したい場合に使用してください。

[追加]

[マージ対象ファイル] に表示されているファイルをマージして追加します。

※マージする順番はファイルの並び順になります。

[削除]

[データソース名] で選択しているデータソースを削除します。

[↑ (上へ移動)]

[データソース名] で選択しているデータソースを1つ上のデータソースと入れ替えます。

[データソース名] で選択しているデータソースより上にデータソースが存在しない場合は入れ替えは行われません。

[↓ (下へ移動)]

[データソース名] で選択しているデータソースを1つ下のデータソースと入れ替えます。

[データソース名] で選択しているデータソースより下にデータソースが存在しない場合は入れ替えは行われません。

図：実行ダイアログ - [出力先]

[出力ファイル名]

ランタイム実行時の出力ファイル名を指定します。

[PDF ファイルを付加]

Print ランタイムでファイル出力を行った場合に、PDF ファイルも生成します。

※ Print ランタイムのみの機能になります。また PDF ファイルを付加する場合 [Adobe Acrobat] が必要です。

[出力プリンター]

[実行ランタイム] - [印刷] を選択した場合に、出力先のプリンター ID を指定します。プリンター ID については、「インストールマニュアル 第1部 インストール 第6章 共通設定 [印刷環境の設定]」をご覧ください。

選択されたプリンター ID に登録しているプリンター名称が表示されます。

[プリンター設定]

Create!Form で使用するプリンターの設定を行います。プリンターの登録は、「インストールマニュアル 第6章 共通設定 - [1-6-5. 印刷環境の設定]」をご覧ください。

[印刷オプション]

Print、PrintStage のランタイム実行時に付加するオプションを設定します。

図：プリント拡張オプションダイアログ



[給紙トレイ]
給紙トレイを指定します。

[排紙トレイ]
排紙トレイを指定します。

[両面印刷]
両面印刷を指定します。

[印刷数 / 頁]
Nup 印刷を指定します。コンボボックスより [1up][2up][4up] から選択します。

[拡大 / 縮小]
拡大 / 縮小の倍率を指定します。倍率はコンボボックス内から選択します。

[位置]
印刷位置を指定します。
※縦方向に関しては、Print と PrintStage で移動方向が異なります。Print は設定した値だけ上へ、PrintStage は設定した値だけ下へ移動します。

図：実行ダイアログ - [オプション]



[QDF ファイル]

ランタイム実行時に使用する QDF ファイルの設定を行います。QDF ファイルを指定する場合、[参照] ボタンをクリックしてファイルを指定します。もしくは QDF ファイル名を [ファイル名:] へ直接入力します。

[QDF ファイル]-[ファイル名]

ランタイム実行時に使用する QDF ファイル名を表示します。

[QDF ファイル]-[参照]

ユーザー設定（共通）フォルダー直下に存在する QDF フォルダー内のファイルをリストで表示します。リストから QDF ファイルを指定します。

[RPX ファイル]

ランタイム実行時に使用する RPX ファイルの設定を行います。RPX ファイルを指定する場合、[参照] ボタンをクリックしてファイルを指定します。もしくは RPX ファイル名を [ファイル名:] へ直接入力します。

[RPX ファイル]-[ファイル名]

ランタイム実行時に使用する RPX ファイル名を表示します。

[RPX ファイル]-[参照]

作業ディレクトリ直下に存在する RPX ファイルをリストで表示します。リストから RPX ファイルを指定します。

[外字自動出力]

帳票内に外字を出力するかどうかの設定を行います。

[外字自動出力]-[ユーザー設定（共通）フォルダー]

ユーザー設定（共通）フォルダー下の font フォルダーの外字フォント（EUDC、TTE）を使用して外字の出力を行います。

[外字自動出力]-[Windows 標準フォントフォルダー]

Windows の Fonts フォルダーの外字フォント（EUDC、TTE）を使用して外字の出力を行います。

[改頁行数指定]

改頁を行うデータファイルの行数を指定します。（TXT、CSV データ時に有効）

[部数指定]

印刷時の部数指定を行います。

[FS オプション]

FormSwitch オプションを有効にします。

図：実行ダイアログ - [データベース]

[登録データソース]

Create!Form に登録されているデータソース名をコンボボックスで表示します。

[データソース名]

登録データソースで選択されているものがある場合、そのデータソース名を表示します。ランタイム実行で DB をデータソースとして使用する場合、登録データソースより選択します。

[ユーザー名]

選択されているデータソースのユーザー名を表示します。

[パスワード]

選択されているデータソースのパスワードを表示します。

[DB 種別]

選択されているデータソースの DB 種別を表示します。

[データソース設定]

データソースの設定ダイアログを起動します。

[更新]

[データソース設定] にてデータソースの情報を変更した場合にクリックしてください。

※変更後に更新を行わないと更新情報が反映されません。

図：実行ダイアログ - [Screen 設定]

[各種 URL]

フォントファイル、画像ファイル、JavaScript ファイル、CSS ファイルの配置場所の URL を設定します。

[各種 URL]-[フォントファイル]

HTML ファイルに用いる Web フォントファイル、外字フォントファイルを配置するフォント URL を設定します。

[各種 URL]-[画像ファイル]

HTML ファイルに用いる固定イメージ画像を配置するイメージ URL を設定します。

[各種 URL]-[JavaScript]

HTML ファイルに用いる JavaScript ファイルを配置する JavaScript URL を設定します。

[各種 URL]-[CSS]

HTML ファイルに用いる CSS ファイルを配置する CSS URL を設定します。

[ページ出力モード設定]-[連続出力]

連続出力モードを設定します。

[ページ出力モード設定]-[単一出力]

単一出力モードを設定します。

[ツールバー出力設定]-[ツールバー表示]

ツールバー表示を設定します。

フォント URL、イメージ URL、JavaScript URL、CSS URL の詳細については、オンラインマニュアルの [3. 機能リファレンス] - [3-8. HTML 出力設定] の以下の場所を参照してください。

- ・ フォント URL/ イメージ URL/JavaScript URL/CSS URL : 「URL 設定」

Create!Form 12

テスト実行 第2版

発行日	2024年8月
発行者	インフォテック株式会社